

木漏れ陽

10月

令和元年 10月 21日 第 57号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 松島正和

たかがトイレ掃除・・・。されどトイレ掃除・・・。

今から十数年前、教頭先生から、「夏休みにトイレ掃除の研修に行ってくれん。」と言われました。というのも、二学期に PTA との合同行事で、校内のトイレ掃除の計画があったからでした。当日は、台風が近づいていた影響もあって風雨が強く、心の中で「中止になればいいのに・・・。」と憂鬱な気持ちで研修場所に向かいました。開店前の 8 時に会場である店内に入ると、社員の方から、「まずは裸足になってください。」と言われました。言われるがままに裸足になると、「それでは始めます。」と言われ、社員の方は、何の躊躇もなく、当たり前のように素手、素足で便器と床に顔を近づけて、黙々とトイレ掃除を始められました。



この会社は、カー用品専門店「イエローハット」です。創業者の鍵山秀三郎氏が、昭和 36 年、28 歳のときに一人で始めた事業が、年間売上 1、250 億円、経常利益 40 億円という優良企業へと発展しました。優良企業へ発展した理由について鍵山氏はこう話されています。「私には人より抜きん出た能力は一つもありません。商売の才覚もない。リーダーシップもあるとはいえません。そんな平凡な私がいままで事業を続けてこられたのは、トイレ掃除を通して『誰にでもできることを、誰にもできないくらい、徹底して続けてきた』という以外に理由は見当たらない」ということだそうです。では、なぜトイレ掃除を続けるだけで企業を大きくすることができたのか。掃除には、人間の心を磨く力から企業を伸ばす力まで、あらゆる力が秘められているのかも知れません。鍵山氏は、掃除の意義について 5 つ述べておられます。

【掃除の 5 つの意義】

①気づく人になる

ぱっと見て、「この便器はきれいだなあ」と思っても、いざ便器と向かい合うと、「ここも汚れている、あそこも汚れている」といろいろな汚れに気づく。すると、今までは床にゴミが落ちていても平気だったのが、気になるようになってくる。これまでは見えなかった細部がよく見えるようになる。

②謙虚な人間になる

掃除をやっている人は、例外なく謙虚になる。謙虚になると、自分が接している周囲の人たちの対応が変わってくる。

③何事にも感動の心を持つようになる

自分でトイレ掃除をすると、「きれいになったなあ」と実感する。この実感こそが感動である。

④物事に感謝の気持ちが湧いてくる

感動と感謝は一緒である。感動をしない人は、感謝もしない。

⑤自分の心を磨く

「心」を外に出して磨くことができればよいが、そのようなことはできない。だったら磨けるものを磨く。間接的に自分の心を磨くことになる。トイレというのは 1 日に何回も見ものだから、それがきれいであれば見ている自分の心もきれいになっていく。つまり、いつもゴミだらけの汚い環境にいる人は、心の中も同じ状態ということである。

出典『81 歳創業者は、なぜトイレを素手で磨くのか イエローハット、世界のトイレ掃除に挑む！』

東洋経済オンライン「<https://toyokeizai.net/articles/-/54721?page=2>」

1 時間ほどのトイレ掃除でしたが、「素手・・・。嫌だな・・・。」と思う心も一度手を突っ込んでしまえば何も感じなくなり、いつの間にか必死に便器と向き合っている自分がいました。トイレ掃除を素手ですることの是非については、それぞれの考えがあるかと思います。ただ、その 1 時間は、「社員さんの便器よりきれいにしたい！」という気持ちが強かったこと、掃除後のピカピカの便器、床を見て感激したことは、今でも覚えています。必死に取り組むことで得られる達成感や成就感を子どもたちにも味わわせたいものです。

(文責: 義務教育指導係 指導主事 森 慎也)

2年目研修企業・福祉施設等体験研修

初任者研修を終えた2年目の教員に対して、企業・福祉施設等体験研修が実施されました。「社会人としての広い視野、豊かな教養、柔軟性に富む職務遂行能力など、教職員としての資質及び指導力の向上を図るとともに、学校と地域社会との連携を強めて、開かれた学校を推進する」という目的のもと、在勤地の市町内から選定・交渉し、夏休みに行われました。2年目の先生方には、校内研修等の合間をぬっての体験研修、大変お疲れ様でした。

違った視点から学校を捉えたり、地域のよさを改めて感じたり、学校を離れての研修による収穫は大きかったことと思います。これからの実践に大いに生かされることでしょう。

【研修先の概要】38名

図書館（佐大 県 市）（6）福祉施設（6）幼稚園保育園（4）法律事務所（1）映画館（2）佐賀空港（2）名尾和紙（2）バルーンミュージアム（1）博物館（1）整骨院（1）健康運動センター（1）ホテル（1）佐川急便（1）ラボパーティ（1）個人の店（8）

【研修の成果（所感等）より 学んだこと】抜粋

- 教員として「指導内容に関する知識」「子どもや保護者に対する思いやり」「子どもたちが学びたいと思えるような授業」をめざし努力する（勸興小 木寺教諭 バルーンミュージアム）
- 接し方の難しさ、利用者のレベルや気持ちを尊重 落ち着いて取り組む手立て。計画に沿って活動すること。子供が不安にならないような手立て（日新小 嘉村教諭 社会福祉法人はる）
- 相手のニーズに対応し、学び続ける姿勢（神野小 堅島教諭 佐賀ターミナル株式会社）
- 協力を要請すること 笑顔と堂々とした態度（神野小 前田教諭 アイケアレジデンス佐賀）
- 児童にあわせた指導（丁寧な受け答え コンパクトに伝えること）（巨勢小 恵崎教諭 佐賀市健康運動センター）
- 児童の家庭環境にも目を向け接する。（北川副小 久保教諭 児童養護施設 聖華園）
- 過去を知るための資料を未来に残す重要な役割（城北中 吉原教諭 佐賀県立図書館）
- 大切なことは目を見て分かりやすい言葉で繰り返し伝えること（川副中 野村教諭 小鹿幼稚園むつみの保育園）
- 困ったときに声を掛けやすい雰囲気作り（鍋島小 高場教諭 佐賀大学附属図書館）

「佐賀市は中2の壁？」「5人に1人がHSC？」

令和元年度佐賀市小中学校不登校児童生徒数（9月末報告）

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
30日以上	1	2	7	8	15	22	27	72	88	242
30日未満	1	3	15	11	16	17	16	42	39	160
計（名）	2	5	22	19	31	39	43	114	127	402

全国では、中学1年で急激に不登校数が増加しますが、佐賀市（今年度9月末不登校月別報告）では、小学校から中学校への壁はなく、スムーズな連携、小中一貫教育、小中連携教育の成果であると捉えています。一方、中学2年で大幅に増加していることから、その原因を明確にし、その対策を講じていくことが急務であろうと考えます。

さて、グループローラーに記されている不登校のきっかけに、「原因不明」や「教室が騒がしい」という理由が大変多く見られることから、人の気持ちを思いやる優しさを持つ一方で、傷つきやすい一面をもつ「ハイリーセンシティブチャイルド（HSC）」ではないか、と考えてみてはどうでしょうか。国籍・性別を問わず、5人に1人いるといわれ、同調圧力がシビアになり、価値観が画一化して同じものさしで測られるようになると、生きづらさが増していくということです。『HSCの子育てハッピーアドバイス』（1万年堂出版）の著者・心療内科医の明橋大二先生は、「一人ひとりの個性を認め、寄り添うことが大切です。」と述べています。これは、HSCの子どもだけではなく、様々な特性をもつ全ての子どもたちにとっても重要なことであるといえます。（教育相談指導員 鶴 利邦）